

会 議 録 (要旨)

会 議 名	瑞穂町行政評価委員会 第3回行政改革推進分科会
開 催 日 時	平成22年7月27日(火) 午前10時50分から11時30分
開 催 場 所	町民会館 第1会議室
出席者及び 欠 席 者	出席者：木村委員(分科会長)、湊委員(副分科会長)、伊藤委員、 大神田委員、金井委員 欠席者：栗原委員 事務局：田辺企画財政課長、高橋企画係長、企画係町田
報 告 事 項	なし
議 題	1 第4次行政改革大綱の枠組みについて 2 その他
傍 聴 者	なし
審 議 経 過 (主な意見等を原則として 発言順に記載。同一内容は一つにまとめた。)	<p>日程1 開会 高橋企画係長により進行が進められた。 事務局から会議の成立についての説明と資料の確認が行われた。</p> <p>日程2 議題 以下、木村分科会長により議事が進められた。</p> <p>議題(1)「第4次行政改革大綱の枠組みについて」 事務局から説明を行った後、各委員からの意見及び質疑を行った。 今回の会議でご意見、ご提案等をいただいた後に、大綱の枠組みを決定の上、成文化の作業を進める旨を報告した。</p> <p>各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答 (湊委員)第3次大綱のように基本理念ごとのタイトルを付けるのか。 (事務局)第3次大綱に近いタイトルを付ける必要があると考えている。 住民の方が分かりやすいタイトルを付けたい。 (伊藤委員)基本理念3の最初の部分について、持続可能で安定的なサービスを提供するために、特定財源の確保に努めたとあるが、税収等の自主財源の確保により、安定的なサービスを提供できるのではないかと思う。国や東京都の補助金等が安定している財源だとは思えない。 (木村分科会長)自助努力による財源確保に加えて、さらに国や東京都の補助金も確保するほうが、自然な表現である。 (事務局)表現を再度検討する。 (伊藤委員)地方の時代においては、自助努力を前面に出した書き出しのほうがいい。 (木村分科会長)町の健全財政を文章で表現して大綱に掲載してもいいのか。健全な財政は住民を安心させるとともに、これから瑞穂町に住もうとする方にもプラスのイメージを与える。</p>

- (事務局)何をもって健全財政かという部分もあるが、財政状況については掲載しなければならない。他の言葉や数値等での表現も検討する。行政改革を進める上で、客観的事実を把握し列記する必要がある。
- (木村分科会長)住民が大綱を読んでプラスのイメージをもつと思う。
- (大神田委員)行政の格付けはあるのか。
- (事務局)バランスシートを用いたものはある。
- (大神田委員)そのようなデータもプラスのイメージのものであれば出すべきだと思う。
- (伊藤委員)基本理念の書き方として、努めた結果どうだったか、公表した結果どうだったか、という流れで文章を構成したほうがいいのではないか。
- (事務局)検討する。
- (湊委員)第3次大綱では、接続詞「しかし」の後に具体的に何をするのかが書かれている。今回の第4次大綱の資料では「しかし」の後が抽象的な表現が多い。
- (事務局)具体例を取り入れる方向で検討する。

議題(2)「その他」

- (伊藤委員)会議資料について、印刷が裏面に写ってしまうとしても、コスト意識を持って両面印刷にしたほうがいい。
- (事務局)次回会議から両面印刷にする。
- 事務局から今後のスケジュールについて説明
- ・ 11月までに第4次行政改革大綱(案)を成文化して、11月中旬に行政改革推進分科会を開催し最終案を示す。再度ご意見やご提言等をいただく。
 - ・ 行政改革推進分科会を通過した最終案を、行政改革推進本部会議で提案し、大綱の最終決定をいただく。
 - ・ 大綱の決定後は実施細目を作成し、翌年2月に行政改革推進本部会議で提案し、決定をいただいた後、3月に行政改革推進分科会で、完成した大綱と実施細目を示す予定。

閉会 午前11時30分